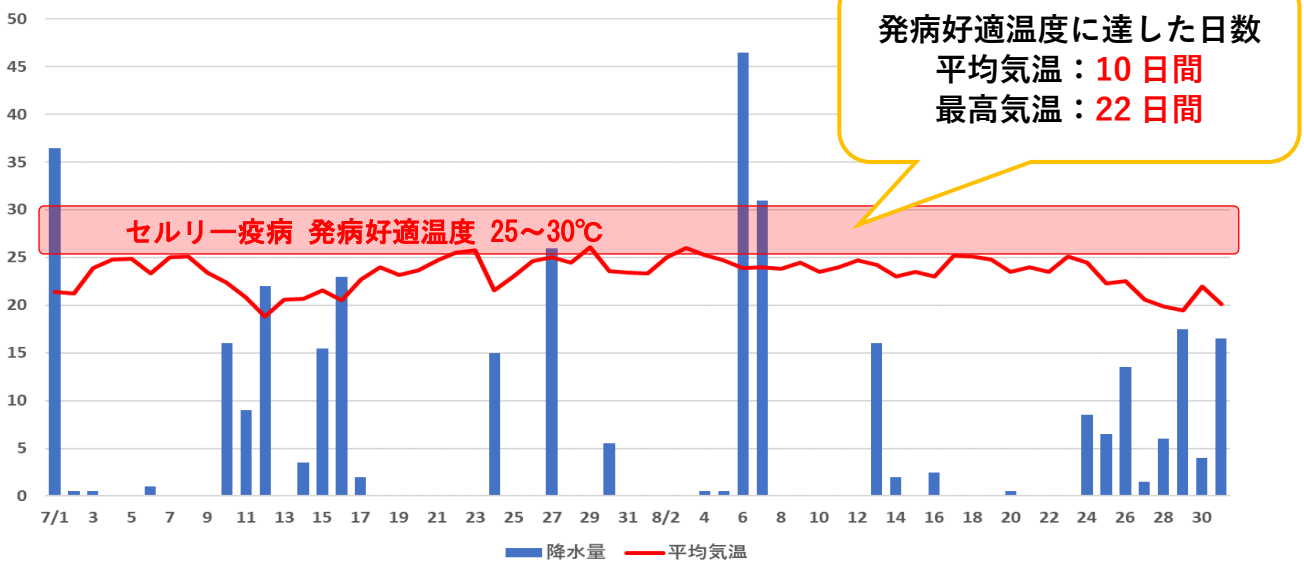


# セルリーかわら版 Vol.3

令和6年9月17日  
諏訪農業農村支援センター

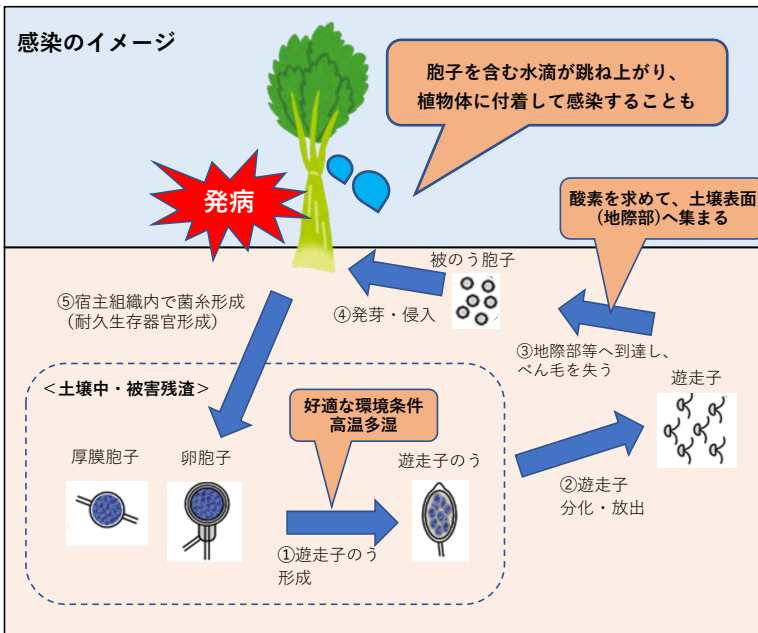
今夏は、昨年以上に原村の平均気温がセルリー疫病の発病好適温度に達する日が多く、さらには発病を助長すると考えられる豪雨の影響もあり、セルリー栽培には大変厳しい気象環境となりました。

## 1 原村 気象経過 (2024年7~8月)



## 2 「セルリー疫病」の病原菌の生態

### Phytophthora 属菌の生活環



- ・ 遊走子は水中を泳いで移動できる  
⇒ かん水、降雨等により拡大
- ・ 菌糸は 7.5~30°C で伸長し、25°C で最も旺盛に伸長する。  
・ 発病好適温度は 25~30°C。
- ・ 被害残渣の組織内で越冬する
- ・ 卵胞子は耐久性があり数年間土壌中で生存できる  
⇒ 被害残渣は抜き取って埋設処分

### セルリー疫病の病原菌

- ・ 病原菌： *Phytophthora tentaculata*
- ・ 宿主： セリ科作物 (セルリー、パセリ、にんじん、フェンネル等)、  
きく科作物 (きく、小ぎく、アスター、ヤグルマギク等) 等  
※ レタスやキャベツ、ブロッコリー、はくさいに対して病原性はない。

### 3 セルリー疫病対策実践事例

汚染土壌を育苗ハウスへ持ち込まない工夫

⇒ **実際に育苗施設での発病が減った**という声が出ています

事例①



【育苗ハウス入口に消毒槽設置】

事例②



【豪雨時雨水が流入しないよう土嚢設置】

事例③



【地面へ直置きしないよう板枠設置】

事例④



【ポットを長時間消毒液に浸漬】

### 4 支援センターの活動紹介

排水対策を目的にセルリー平高うねマルチ栽培試験を行いました。

4月23日、ヤンマーアグリジャパン（株）の協力により、ベッドマイスター（平高うね立て成型機）で、高さ35cmのうねを設置、6月30日に収量調査を行いました。詳細は別途報告させていただきます。

